

令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①学力向上と高いレベルでの進路希望実現に向け、新たな教育課程を編成するとともに、不断のカリキュラム・マネジメントにより授業改善・教育活動の充実に取り組む。</p> <p>②知識の習得とともに、生徒の主体的に学ぶ意欲を高め、自ら課題を発見し解決する探究力や思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的行動、協働と創造による取組を促進する。</p>	<p>②課題設定・情報の収集・整理分析・まとめ表現という探究のサイクルを活用してより高度な思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>③学校行事及び生徒会活動を充実させ、主体性、協働する力を育成する。</p>	<p>②各教科・科目の特性に応じて体系的で幅広い知識に触れさせながら個々の進路希望を中核におき主体的に学ぶ意欲が高まる授業を展開する。</p> <p>③計画的に生徒の意見を聴取し、学校行事や学校生活に反映させる。また、学校行事、学校生活を振り返らせ、より良いものとなるように主体的に関わり、協働する力を育成する。</p>	<p>②学習での気づきや他教科とのつながりを記述式により問う「生徒による学習の自己評価」の内容。「生徒による授業評価」の内容。授業での単元ごと等の振り返りの内容。</p> <p>③生徒が学校行事や学校生活について考え、意見を出し、協働、創造する機会をとらえ、実施に向けた方策を十分に考え、反映させることができたか。(担当者評価・生徒アンケート)</p>	<p>②「生徒による学習の自己評価」「生徒による授業評価」の内容からは積極的・主体的に学習に取り組む様子や教科間のつながりに気付く様子が見られ、探究のサイクルを構築している姿が見られる。</p> <p>③学校行事について、計画的に委員会や係の会議を行い、生徒が主体的に協働しながら、生徒の意見を反映させるできている。</p>	<p>②探究のサイクルが確かな基礎学力の充実に裏付けられた進路希望の実現につながるとは言い切れない状況もある。より幅広い視点からの支援方針の確立が必要である。</p> <p>③生徒の運営組織を整理し、その役割について充分周知したが、学校全体のための意見と個人の意見がぶつかる場面があった。より緊密なコミュニケーションによってお互いの理解を図っていく。</p>	<p>③主体的で元気な生徒を増やしてほしい。</p>	<p>②生徒による評価結果からも主体的に学習に取り組み、探究的な学びを通して思考力・判断力・表現力の育成につなげることができた。教育活動のさらなる充実に向け、ICT等を有効活用するなど、支援の工夫に努めている。</p> <p>③生徒が主体的かつ積極的に学校行事等に携わることで、豊かな人間性や協働性を育むことができた。生徒主導のもと、学校行事が運営できるようさらなる支援が必要である。</p>	<p>②教育活動の充実に向けた支援方策やICTの活用方法を各教科等で検討していく。</p> <p>③生徒主導で学校行事を運営していくための働きかけや支援方策を検討していく。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①学校生活のあらゆる場面で、社会規範や自己管理能力など社会人として必要な資質を身に付けさせる「人づくり」を行う。</p> <p>②部活動を通じて、社会性や自主性、協調性等を涵養する。</p> <p>③生徒一人ひとりの個に応じた組織的な相談・支援体制を充実させる。</p>	<p>①日々の授業や学校行事、部活動等のなかで、社会の一員としてのルールを理解や、自分で考え行動する力を身に付けられるよう取り組んでいく。</p> <p>③生徒一人ひとりが相談しやすい環境作りや相談体制の整備をする。SC・SSWとの連携を図り、生徒にとってより良い支援を実践していく。</p>	<p>①総合的な探究の時間、LHR等を利用して道徳的資質を身に付けさせる。また、学校行事等での経験を通して、心身の向上をはかる。</p> <p>③学校内での相談体制の周知徹底を行う。日常の中で、気付く変化を共有し、支援へとつなげる。また、SC・SSWの来校に合わせて情報共有し、生徒にとって必要な支援へとつなげる。</p>	<p>①社会人として必要な資質を身に付けたか(生徒自身の振り返り・教員評価等)</p> <p>③相談体制が生徒にとって見える形で整備されている。SC・SSWとの連携が図られるとともに、情報共有ができる体制作りができたか。</p>	<p>①総合的な探究の時間では、進路研究、地域研究、ディベートなどを通して自分自身を見つめなおし、社会の一員としての自覚を促した。種々の学校行事を主体的に取り組み仲間とのかかわりを通して心身の成長につなげた。</p> <p>③SC等への相談件数は増えているので、生徒への相談体制の周知はできている。担任含め、SC等の情報発信をすすめてきた結果だと考えられる。連携等については、情報共有に努めているが現状ではなかなかできていないと感じている。SSWとの連携も含め、情報の共有をする場面が不足していると感じる。</p>	<p>①引き続き計画性をもって、生徒の活動が充実したものになるよう取り組む必要がある。</p> <p>③相談件数が増える一方で、相談を受けられる人数にも限界があるので、緊急に相談が必要な生徒への対応等が求められる。SSWへのつなぎ方やどのような状況が連携を勧めるべきなのか判断が難しい、もしくは基準もないので、個別の判断になるがそれらを丁寧に対応していくことが必要だと感じる。</p>	<p>③SC、SSWの相談件数が増えている。子どもたちの居場所づくりが必要である。また、初期対応が大切であり、担任や教科担当との連絡体制が確立できるとよい。</p>	<p>①さまざまな教育活動を通して社会規範を身に付けるとともに、他者とのかかわりを通じ、心身の成長につなげることができた。引き続き、社会の一員としての自覚を促していききたい。</p> <p>③生徒が相談しやすい環境や相談体制は構築できている。状況に応じて、SCとSSWへの適切な支援へとつなげていく必要がある。</p>	<p>①学校行事や総合的な探究の時間の授業などに、さまざまな場面を通して社会人としての資質を身に付けさせていくための機会を作る。</p> <p>③SCとSSWのそれぞれの役割について教職員への周知に努める。また、生徒だけではなく、保護者や教職員への支援も併せて行っていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①国際社会や地域社会で活躍できる高い資質・能力を持った人材を育成するため、学校外の教育力も活用して、キャリア教育、グローバル教育を充実させる。</p> <p>②進路指導計画に基づき、体系的な3年間の進路指導プログラムを実践し、生徒の進路希望を実現させる。</p>	<p>①国際社会や地域社会で活躍するための高い資質・能力の基礎となる力を身に付けさせる。</p> <p>②進路指導計画に基づき、体系的な3年間の進路指導プログラムを実践し、生徒の進路希望を実現させる。</p>	<p>①英語検定を準会場として実施する。国内の短期英語研修施設に2泊3日の日程で希望する生徒を派遣する。</p> <p>②大学見学や各種講座など行い、進路目標を定める機会を作る。先を見据えた進路指導のプロセスを明示し、探究活動等を充実させる。生徒のニーズに応じた補習や講習を通し、進路実現のための支援を行う。</p>	<p>①英検2級程度の力を身に付けた生徒の割合。短期研修の振り返りに見られる満足度や達成感。</p> <p>②生徒の進路目標を定めることができたか。第一希望の実現に向けた学力を向上させることができたか。希望する進路先に入ることができたか。</p>	<p>①英語検定を準会場として実施した。英検2級以上に合格した生徒数→140名 国内の短期英語研修施設に46名が参加した。短期研修の振り返りに見られる満足度や達成感→100%</p> <p>②大学見学、大学出張講義を通して、進路目標に近づくことができた。日々の授業の積み重ね、補習・講習などを通して学力向上させることができた。</p>	<p>①進路実現への有効性をより意識させ、準会場だけではなく受験の拡充を促すとともに、英語科の協力により合格率を上げる取組の充実を図る。</p> <p>②生徒の希望に更に沿う大学選び、生徒の希望に沿う大学出張講義の講師選びを充実させる必要がある。</p>	<p>②方針について保護者に入学時に伝えるとともに、1年次から動機付けや気概を持たせ、教員が先導していく必要がある。また、生徒や保護者の希望も踏まえながら、エントリー校としての目標を設定し、基準に違和感を感じるのであれば、声を上げていくべきである。</p>	<p>①グローバル教育の充実を図るため、英語検定の積極的な受検を推進し、その成果を収めた。また、国内の短期英語研修を実施し、語学力の向上に努めた。検定合格率の向上に向け、生徒の関心や意欲を引き出す。</p> <p>②生徒の希望する進路実現に向け、適切なプログラムの実践に従事することができた。国公立大学を受験する生徒のニーズに応じたカリキュラム編成の検討が必要である。</p>	<p>①検定の成果が進路の実現に結びつくことや、語学力を高めることで、職業選択の幅が広がることを伝えていく。</p> <p>②生徒の進路希望や受験科目を把握し、必要に応じてカリキュラムの改善を図っていく。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域や家庭との連携・協働による教育活動を推進し、地域・家庭の期待や信頼に応える学校づくりを進める</p> <p>②学校の魅力・特色を伝えるため学校の情報を積極的に外部へ発信し、広報活動の充実に努める。</p>	<p>①学校行事、生徒会活動、部活動を中心に、地域と連携した活動に取り組み、豊かな人間性を育む。</p> <p>②一人でも多くの方に本校の魅力を発信するよう企画する。また、昨年度より行ってきた学校HPの充実に引き続き努める。</p>	<p>①生徒会、委員会、部活動の活動を通じて、地域との交流の機会を持ち、地域の活性化を図る。</p> <p>②本校から近い外部会場で説明会を開催することや企画する。また、学校HPの充実と同時進行で、本校PR用のパンフレットを製作する。</p>	<p>①地域と連携し本校の魅力を発信することができたか。(担当者評価) また、地域行事等への参加ができたか。</p> <p>②昨年度よりも多くの来場者に本校の魅力や特色として幅広く発信することができたか(担当者評価)。</p>	<p>①生徒会や複数の部活動が地域の行事に参加するなど地域の活性化に貢献できている。</p> <p>②本校から近い外部会場で説明会を開催することや、多くの来場者に本校の魅力を発信することができた。また、学校案内発行とともに、学校HPを活用し、生徒や部活動・PTA活動などの情報を発信することができた。</p>	<p>①今後も各団体の活動状況を考慮しながら、本校の魅力発信の方法や新たに参加できる行事等について検討を重ねる。</p> <p>②学校広報活動をおこなう上で、全職員の協力のもとで、さまざまな角度から情報発信する体制を今後構築していきたい。</p>	<p>①学校は地震の際の避難所になる。地域を巻き込む必要がある。また、大学教授による遺跡についての講話や、文化祭での協働など、遺跡と共存しながら教育活動を行うとよい。</p>	<p>①生徒が地域の行事に積極的に参加することで豊かな人間性を育むとともに、地域活性化に貢献することができた。全校生徒が地域との交流を図れるよう努めている。</p> <p>②学校説明会やパンフレットの作成などさまざまなPR活動に注力した。HPによる積極的な広報活動が課題である。</p>	<p>①北陵祭などで地域との交流活動を積極的に行っている。</p> <p>②HPの更新を頻繁に行い、絶えず新しい情報を提供していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①研修など日ごろの意識啓発により、教職員一人ひとりの危機管理意識を高め、業務の共有・協働・効率化を進め不祥事を防止する。</p> <p>②生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備、防災体制の整備に取り組む。</p> <p>③円滑で効率的な学校運営のため、常に検証・改善を重ね、教員の働き方改革に取り組む。</p>	<p>①不祥事防止研修を通して、教職員一人ひとりの危機管理意識を高める。業務以外においても、互いに意見を言い合えるなど「風通しの良い職場」を目指し、不祥事を未然に防止する。</p>	<p>①不祥事防止研修において、自分事として考えることができるよう、資料や形態を工夫する。不祥事防止研修以外にも、不祥事につながる情報を共有し、不祥事防止に関する共通認識の醸成を図る。</p>	<p>①不祥事を未然に防ぐことができたか。</p>	<p>①不祥事防止研修等において、不祥事につながる情報を共有し、不祥事防止に関する共通認識の醸成を図ることができた。</p>	<p>①今後も、自分事として考えることができるような資料や形態を工夫する。</p>	<p>①定期的に不祥事防止研修を実施し、危機管理意識を醸成するとともに、不祥事を未然に防止するための職場環境の構築に努めた。不祥事を自分事として考えるための研修の構成や資料の工夫が必要である。</p>	<p>①不祥事防止について、教職員が主体的に取り組むようグループ協議の設定などを検討していく。</p>	